

教科	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取組）	成果(○)と課題(△)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがな・カタカナをすらすら読むことができる児童が多く、音読では、正しく発音し、リズムもよく、意欲的に取り組んでいる。 ・文章を書く時に、長音、拗音、促音、撥音などを正しく使えない児童が多い。 ・読むことの学習では、登場人物の行動や心情に着目して想像することは概ねできているが、文章を読んで、感じたことや分かったことを文章で書くことが苦手な児童もいる。 ・話を最後まで聞かずに、思ったことを途中で発言したり、質問したりすることがある。 ・伝え合う学習では、伝えたい気持ちはあるが、声の大きさが小さかったり、自信がもてなかったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読を学習活動に多く取り入れ、語句のまとまりを意識して読ませるなど、更にすらすら読めるように練習を重ねていく。 ・タブレットのMIMを使った学習で、長音、拗音など書き方と読み方の定着を図る。また、促音は文章を書く学習のときに、書き方を指導していく。 ・文章を読んで感じたことや思ったことを短文で書き、書き方の視点を指導する。友達と共有する前に、共有の仕方を指導し、どんな考えや意見も最後まで肯定的に聞くようにする。 ・自信をもって発表できるように、メモを使った発表や、少人数の発表など段階的にすすめていく。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・1から9までの数字は分かっているが、正しい書き順や形で書けない児童がいる。 ・10までの加法・減法の計算にとっても意欲的だが、答えを出すまでに時間のかかる児童がいる。 ・計算はできるが、文章題になると分からなくなる児童がいる。 ・身の周りにある物の長さを、直接比較や間接比較の方法で比べることができる。任意単位による長さの比較になると、数え間違ったり、正しく比べられなかったりすることが増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習やけやきタイムを活用し、基礎基本の定着を図る。 ・計算カードを用いて、10までの加法と減法を繰り返し取り組み、計算する力を積み上げる。 ・挿絵を見て加法・減法の式を考えたり、生活の中の加法・減法の場面を繰り返し考えたりすることで理解を深める。 ・生活の中や算数以外の学習の中で、任意単位による比較を取り入れる。比較の方法を工夫した過程や結果を振り返り、その良さを感じさせる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・どの単元にも興味をもって取り組む児童が多く、特にアサガオを育てる活動では、普段から水やりなどの世話をして大切に育てていた。 ・人と交流する活動は、限られた単元でしか行っていないため、いろいろな場の設定や機会を工夫していきたい。 ・季節の変化を五感を使って感じたり、物事を比較したりしながら気付くことができた。気付きを友達と意欲的に交流する児童が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の思いや願いを受け止め、その思いや願いなどを学習活動に多く取り入れ、児童が主体的に取り組めるようにする。 ・2学期以降も、他学年や地域の方々等との関わり合いを通して、相手のことを想像したり伝え方を選んだりする力を育てる。 ・友達同士での発表の時間を設けたり、教師が価値付けたりすることで、諸感覚を働かせる力を育てる。学校外の公園も活用し、児童が自然と関わることができる環境を整える。 ・2学期以降、あきみつけやあさがおの生長を振り返る活動を取り入れ、生き物への親しみをもち、 	

		大切にしようとする心情を育てる。	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の様子を感じ取って、歌ったり身体を動かしたりすることを楽しみながら取り組んでいる。 ・拍を感じながら歌ったりリズム打ちをしたりすることができるようになってきた。音を聴くことが習慣付くように指導を続ける必要がある。 ・鍵盤ハーモニカへの興味・関心をもって学習に取り組んでいる。指の独立した動きや基礎的な奏法（タンギング等）を身に付ける指導を丁寧に続ける必要がある。 ・楽器の扱い方を常に確認をして、大切にしよう指導を続ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の様子を感じ取る際のポイントを明確に伝え、言葉で表せるよう表現の仕方を広げていく。 ・一定の拍の流れを感じ取りながら表現できるよう、電子黒板や範奏で基準を示す。聴き方の約束を確認して、音を聴く習慣が身に付くようにする。 ・独立した指の動きにつながる常時活動（指の体操）を楽しみながら続ける。映像による範奏を活用して視覚的に分かるようにする。 ・楽器の持ち方や音の出し方を必要に応じて確認し、心地よい音色に親しめるようにする。 	
図画 工作	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりの使い方に慣れていない児童がいる。特に、のりを付けすぎてしまう児童が多い。 ・作品完成まで集中力が持続しない児童がいる。 ・作品の仕上げが雑になってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・はさみやのりの使い方のポイントを分かりやすくし、繰り返し練習する。 ・活動のめあてを明確にしたり、完成した作品を掲示したりして作品制作への意欲を高め集中を持続できるようにする。 ・作例や見本を書画カメラで分かりやすく示し、丁寧に仕上げた作品の良さに気付かせる。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな運動に楽しみながら、意欲的に取り組む児童が多い。 ・集団に合わせた行動や整列、きまりなどを守ることへの意識が高い。 ・道具を上手に使ったり、体のバランスをとったりすることに、難しさのある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいを明確にし、学習の見通しを伝えていく。さまざまな運動を計画する。 ・運動の前にきまりを確認し、集団行動をとる良さを感じさせたり、きまりを守って運動できたりしたことを実感させる。 ・様々な動きを体験させ、スモールステップで、できる運動を増やしていく。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・動作化や役割演技などを通して、登場人物の気持ちを理解できる児童が多い。 ・自身の生活や経験を思い出したり、振り返ったりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中に、児童同士の動作化や役割演技を積極的に取り入れ、一人一人に表現させていく。 ・授業の始めに、身近な出来事を思い起こさせて板書し、授業の後半に生活経験を振り返りやすくする。 	